



Vol.36

## 机の上の小さな変革



## 言い換えの効能

こんにちは、菅俊一です。今回は少し頭を使いながら、様々な物事を別の言葉で言い換えてみるということをしてもらいたいと思っています。

この「言い換え」には様々な視点や方法があると思うのですが、今回は物理的な現象に着目してみましよう。たとえば、「テーブルの汚れを拭く」という言い方は、あくまで行為を行なっている自分から見たときの目的や価値観が反映されている目線ですが、同じ行為を「テーブル表面にある水分をティッシュに吸収させて移動する」と言い換えてみると、「汚れ」というのは自分自身の評価軸であって、実際には単に水分の移動をしているだけなのだ、と捉えることができます。

では、いまの例を参考に、次はみなさんに言い換えてもらいましょう。今度は「鉛筆で紙に文字を書く」という行為を物理的な現象に着目して言い換えてみていただけますでしょうか。



いかがですか？ うまく物理的な現象に言い換えることはできましたか？ ちなみに私は「ザラザラした表面に柔らかい物を擦り付けて削る」と言い換えてみました。こうやって言い換えてみると、先ほども書きましたが、行為に対する人間の意志や判断は剥ぎ取られ、単純な現象として極めてフラットに見ることができます。

では、同じような感じで今度は「スニーカーでアスファルトの上を走る」という行為を言い換えてみましょ

う。できたらさらに、「石鹸でスポンジを泡立てる」「マッチで火を付ける」という行為についても言い換えてみてください。

## 抽象化によって見つかる解決策

いかがでしょうか。こちらもちなみに、私がどんな言い換えをしたかを紹介しておくと、実はどれも「ザラザラした表面に柔らかい物を擦り付けて削る」と言い換えています。そう、最初の「鉛筆で紙に文字を書く」からすべて同じ現象として私は書いていました。

実際のみなさんの答えは、ここまで同じではなくとも似たような答えだったかもしれません。まったく無関係な様々な行為自体も、同じ構造や質を持った物理的な現象として捉えることができます。

同じ現象や構造を持つ物として捉えることができると、このなかのある行為で発生している問題の解決策が、別の行為で起こった問題の解決策に成り得る可能性があります。たとえば、石鹸をどんどん使っていると小さくなって使い難くなることがありますが、鉛筆の場合は短く削られ使い難くなった場合、補助軸によって使いやすい長さに調整することがあります。そうすると石鹸における補助軸とはどのような物に成り得るのでしょうか。

物理的な事象として人間の印象と切り離して物事を捉えることで、意外な解決策を手に入れられる可能性があるのです。



## PROFILE 菅 俊一 (SYUNICHI SUGE)

コグニティブ・デザイナー。表現研究者。映像作家。多摩美術大学美術学部統合デザイン学科准教授。1980年東京都生まれ。人間の知覚能力に基づく新しい表現を研究・開発し、様々なメディアを用いて社会に提案している。主な仕事・著書に、NHK Eテレ『2355/0655』、『観察の練習』、『ヘンデコノミクス』など。